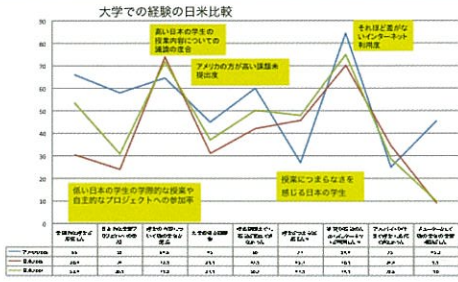
 Japanese Cooperative Institutional Research Program

# JCIRPのご案内

JFS

JCSS

JJCSS



継続的データからわかる大学での経験度が進展する日本の大学  
アメリカの学生よりも大学での経験度が低い日本の学生  
教員のFDの必要性を提示か たびたびした+たまにした  
の比率 (%)

JCSSとは

JCSS (大学生調査) はCSS (アメリカ版大学生調査) の項目をカリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所 (UCLA HERI) から許諾を得て翻訳した項目が基本となっており、国際比較ができることが特徴です。400ある質問項目には日本の実情に合わせて作成した項目も含まれています。大学3年生あるいは4年生向けの質問紙調査です。次にご紹介するJFSのポストテストとして使用することで、学生の大学での成長過程が把握できます。また、調査結果を通じて、大学の教育プログラムの課題なども把握することができるので、教育改善の基礎資料として利用できます。

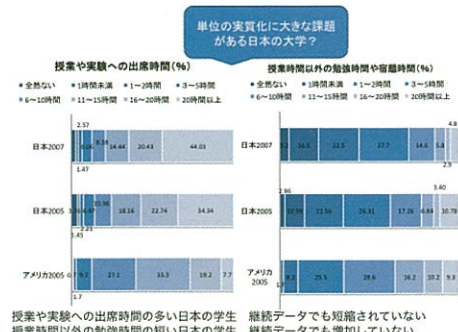
JCSS基礎データ

大学生調査2007年 (JCSS2007)

参加校数: 国公立大学14校、短大2校

参加人数: 6228名

調査時期: 2007年12月~2008年1月

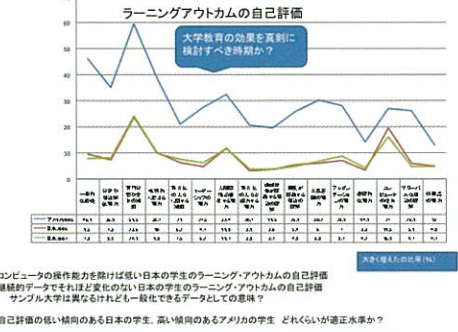


授業や実験への出席時間の多い日本の学生  
授業時間以外の勉強時間の短い日本の学生  
継続データでも増加していない

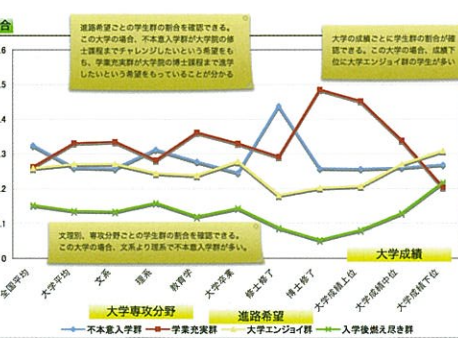
JCSSでわかること

JCSSを通じて、参加された大学の学生の特徴、学習行動、生活行動など学び習慣を把握することに加えて、そうした学び習慣の根底にもなる学生自身の自己評価、価値観や満足度などもわかります。また、参加者全体と比べた自大学の学生の特徴を知ることができるので、ベンチマークとして利用することができます。たとえば、日本の学生はアメリカの学生よりも授業の内容や課題について議論をする傾向があることが示されています。こうした学生の傾向から、より学生が授業に活発に参加できるように授業の形態を考えていく資料にもなります。

日本の学生の1週間の授業時間への出席がアメリカの学生に比べて長いこと、反対に授業以外での学習時間が短いことがグラフからわかります。いかに単位の実質化を進めていくかの検討材料として利用できます。



コンピュータの操作能力を除けば低い日本の学生のラーニングアウトカムの自己評価  
継続的データでそれと変わらない日本の学生のラーニングアウトカムの自己評価  
サンプル大学は異なるけれども一般化できるデータとしての意味?  
自己評価の低い傾向のある日本の学生、高い傾向のあるアメリカの学生、どれくらいが正確水準か?



大学生調査 2007年 (JCSS2007)

調査ご協力のお願い

学習環境

調査ご協力のお願い

調査ご協力のお願い



初年次教育学会第1回年次大会(玉川大学)における  
JCIRP研究代表山田礼子による基調講演

# 新入生調査 JCIRP Freshman Survey (JFS)

## JFSとは

JFS（新入生調査）はTFS（アメリカ版新入生調査）と比較できるように、TFSの項目をカリフォルニア大学ロスアンゼルス校高等教育研究所（UCLA HERI）から許諾を得て翻訳した項目が基本となっています。この調査も国際比較ができるように設計しています。新入生向きに設計されており、学生の成長を把握する出発点となる調査です。新入生の高校時代の学習行動や生活行動を把握し、大学での適応について知ることができます。

たとえば、右のグラフは高校3年時の学習時間について入試形態と高校での成績状況との関係を見たものです。このグラフから一般選抜（一般入試、センター試験）で入学し、かつ高校での成績上位者の1週間の学習時間が長いことがわかります。次の表は、学生の自己評価について入試形態と高校での成績状況との関係を見たものです。この表からは、学力面では一般選抜（一般入試、センター試験）・成績上位者の自己評価が高い一方で、「やる気」や「チャレンジ精神」など大学生活を送る上で欠かせない情緒的側面においては、特別選抜（推薦、AO入試、内部進学）・成績上位者の自己評価が高いことがわかります。

このようなデータを基礎資料として、大学3年・4年次生用に設計されているJCSSと組み合わせることで大学という環境での学生の成長過程を、より効果的に把握できます。

## JFS基礎データ

新入生調査2008年（JFS2008）

参加校数：国公立大学164校（短期大学、複数学部を含む）

参加人数：19661名

調査時期：2008年6月～7月



# 短大生調査 JCIRP Junior College Student Survey (JJCSS)

## JJCSSとは

JJCSS（短大生調査）は日本で新たに開発された短大生用の調査のことです。この調査はJCSSを基本に短大2年次生を対象に開発されました。短大生の短大2年間での成長過程が把握できます。また、調査結果を通じて、短期大学の教育プログラムの課題なども把握することができるので、教育改善の基礎資料として利用できます。

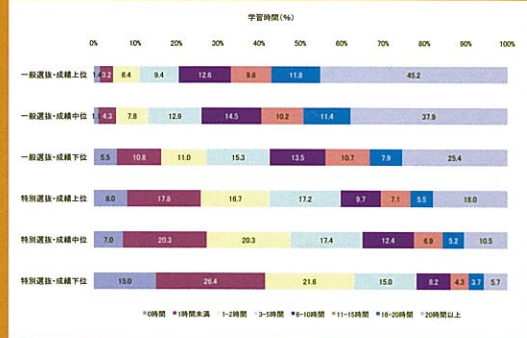
## JJCSS基礎データ

短大生調査2009年（JJCSS2009）

参加校数：短期大学30校

参加人数：7219名

調査時期：2009年11月～12月



自己評価：類型による差が大きい項目(%)

	一般・上位	一般・中位	一般・下位	特別・上位	特別・中位	特別・下位
学力	47.6	26.5	15.1	20.0	8.5	3.1
一般的な教養	39.1	28.6	24.4	27.7	19.2	15.2
知的面での自信	33.7	19.5	15.2	18.6	11.7	10.2
競争心	47.6	37.0	29.7	43.7	34.8	33.7
数理的な能力	26.9	18.3	16.0	14.4	12.3	9.2
やる気	41.3	38.7	29.6	47.1	40.6	38.2
読解力	30.7	27.0	23.5	24.3	18.6	16.4
チャレンジ精神	39.5	34.4	30.1	43.8	38.0	38.5
体の健康	40.5	40.9	37.5	48.7	45.4	44.7
文章表現の能力	21.5	18.9	16.8	23.3	14.8	12.8
コンピュータの操作能力	19.7	14.6	15.2	25.1	19.0	16.5
自己の理解	40.0	32.9	30.3	39.8	31.9	29.5

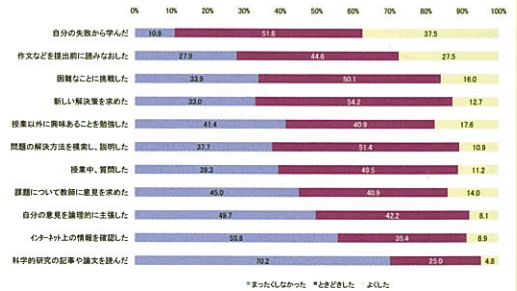
「上位10%」+「平均以上」の合計  
ピンク色が最も値が大きいセル、黄色が次に値が大きいセル

自己評価：類型による差が小さい項目(%)

	一般・上位	一般・中位	一般・下位	特別・上位	特別・中位	特別・下位
情緒面での安定度	32.1	28.4	25.0	33.1	27.9	22.7
芸術的な能力	26.7	21.1	19.7	20.7	20.0	17.7
リーダーシップ	25.6	20.1	18.2	27.2	20.6	21.7
他者の理解	34.7	33.9	28.9	36.6	34.4	31.5
社交面での自信	27.0	26.0	25.1	31.0	27.5	27.6
プレゼンテーションの能力	15.8	11.6	11.4	15.1	12.8	11.7
宗教心や精神性	10.6	8.3	8.0	12.1	9.7	8.7
協調性	37.3	38.8	30.2	38.8	36.2	32.8
創造性	28.5	25.0	25.4	28.3	25.8	21.9

「上位10%」+「平均以上」の合計  
ピンク色が最も値が大きいセル、黄色が次に値が大きいセル

第3時の学習活動(%)



## 新入生調査 2008年 (JFS2008)

調査ご協力のお礼

この調査は、国際比較のために、日本の高等教育を調査し、世界の各国に紹介することを目的として、国際比較のために、アメリカ版新入生調査(JFS)を基本として、日本の新入生調査(JFS)を開発しました。この調査は、アメリカ版新入生調査(JFS)を基本として、日本の新入生調査(JFS)を開発しました。この調査は、アメリカ版新入生調査(JFS)を基本として、日本の新入生調査(JFS)を開発しました。

- 1) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。
- 2) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。
- 3) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。
- 4) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。
- 5) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。
- 6) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。
- 7) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。
- 8) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。
- 9) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。
- 10) 本調査の調査結果を公表するにあたり、(1) 調査結果の公表に同意した学校を掲載し、(2) 調査結果の公表に同意しない学校は掲載しないものとします。

Japanese Cooperative Institutional Research Program (大学生調査研究プログラム) は、文部科学省科学研究費プロジェクトとして開発した、新入生調査 (JFS) と大学生調査 (JCSS) の2つの学生調査からなるプログラムです。JFSと JCSSは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所 (UCLA HERI) の許諾を得て、HERI が行ってきたCIRP Freshman SurveyとCollege Student Survey (CSS)をもとに日本用の独自項目を加えて開発されました。

JCIRP (ジェイサープ) は、2004年からJCSSの開発を開始し、2005年、2007年、2009年に日本の大学生を対象に調査を実施しました。これまでのJCSS参加大学は62校、参加学生数は約15,500人に上っています。2008年には、大学高学年用のJCSSに加えて、新入生用のJFSを開発しました。JFSは2008年と2009年に実施し、2年間で参加大学は179校、参加学生数は約28,000人まで及んでいます。それぞれの調査票は、学生の入学以前のバックグラウンド、大学での経験、満足度、獲得したスキルや能力、生活習慣、自己評価、価値観等の項目から構成されており、自大学の学生の全体像が把握できるようになっています。質問項目は、学生の成長に関する理論的研究をベースに作成されていますので、信頼性も高いものとなっています。

調査にご参加いただきますと、貴学の学生の個別調査データをお返しします。この2つの学生調査 (JCSSとJFS) の両方あるいはどちらかにご参加いただくことにより、貴学の学生に関する詳細なデータが得られるとともに、同じ調査に参加した他大学の学生の統計データとの比較が可能になります。これには、主に以下のようなメリットがあります。

- ①大学教育改革のために役立つ
- ②入学志願のマーケティングに役立つ
- ③アクレディテーション (認証評価) 対策として役立つ
- ④ベンチマークとして役立つ
- ⑤国際比較ができる
- ⑥共同研究に参加できる

JCSSとJFSは、複数大学の学生を対象に同時期に共通の質問項目で調査を行うことにより、学生の現状を把握するほか、学内および大学間で相对比较できるように設計されています。質問紙は、研究センターに直接請求していただくか、ウェブサイトからダウンロードしてご使用いただけます。研究センターに参加お申し込みの上、各大学で質問紙の配布、回収を行っていただき、記入済みの質問紙を研究センターにお送りいただきます。ご希望があれば、貴大学の学生の回答内容を電子化した情報をCD-ROM化してお送りします。また、単純集計もお送りするよう計画しています。

### JCSSは秋学期の初旬

2010年度版のJCSSは11月1日から各大学の都合に合わせて調査を実施いただき、12月15日までに調査票を研究センターにご送付いただく予定です。詳細については下記連絡先からご確認ください。

科研プロジェクトのウェブサイトから質問票のダウンロードができます。是非ともご覧ください。

その他のご質問に関しましては、右記電子メールアドレスにご連絡ください。

研究センター

<http://rc-jcirp.doshisha.ac.jp>

科研プロジェクト

<http://rc-jcirp.doshisha.ac.jp/kaken>

電子メール: [rc-jcirp@mail.doshisha.ac.jp](mailto:rc-jcirp@mail.doshisha.ac.jp)

研究代表  
山田礼子 (同志社大学)  
メンバー  
相原総一郎 (大阪薫英女子短大)  
江原昭博 (同志社大学)  
圓月勝博 (同志社大学)

沖清豪 (早稲田大学)  
木村拓也 (長崎大学)  
杉谷祐美子 (青山学院大学)  
館昭 (桜美林大学)  
西郡大 (佐賀大学)  
古田和久 (同志社大学)

宮田尚子 (同志社大学)  
村澤昌崇 (広島大学)  
森利枝 (大学評価・学位授与機構)  
安野舞子 (横浜国立大学)  
吉田文 (早稲田大学)  
渡辺達雄 (金沢大学)